

たっぷりあったおうち時間のおかげで、2020年は家で星を見る機会が増えました（星見は子供の頃からの趣味です）。とはいえ街灯や車のヘッドライトで明るい星しか見えない。そこで頼りになるのが最近の高性能デジカメで、肉眼では見えない暗い星までウソのように撮れてしまいます。そんな写真を通して2020年を振り返ります。



写真1 新年を祝う花火が遠くで響く中、オリオン座とおおいぬ座を撮りました。うまい具合にオリオンに流星が流れました。この頃、オリオンの一等星ベテルギウスがいつになく暗くなっていて、近いうちに超新星爆発するのではないか、と話題になりましたが、天文で言う「近いうち」というのは数万年以内という意味です。

→拡大してご覧ください。



写真2 桜の季節には金星がプレアデス星団（すばる）のとなりを通過しました。咲き始めた花の間から明るく輝く金星と、その右下に集まる星の集団すばるが顔をのぞかせていました。



写真3 5月の満月をフラワームーンと呼ぶらしいのですが、
フラワーというより花札っぽいですよね。

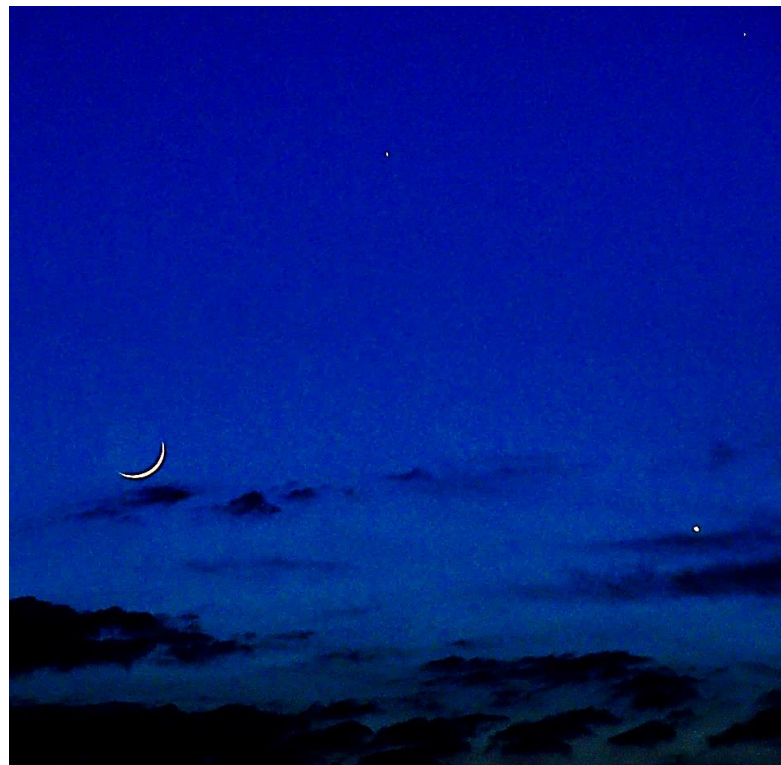


写真4 5月には細い三日月と水星、金星が三角形に並びま
した。明るいのが金星、上の暗いのが水星。水星は見るのが
大変難しい惑星です。



写真5 6月は部分日食。残念、雲が！

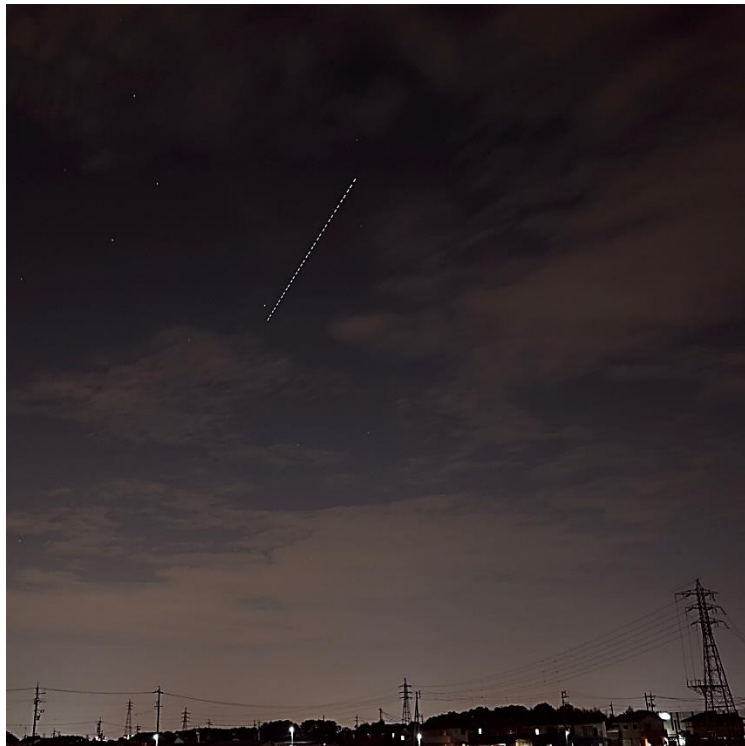


写真6 国際宇宙ステーションは簡単に見えます。
夕方の空を明るい光がゆっくりと進んで行きます。



写真7 年末には木星と土星が見かけ上大接近。明るい方が木星です。日に日に近づき、ついに…

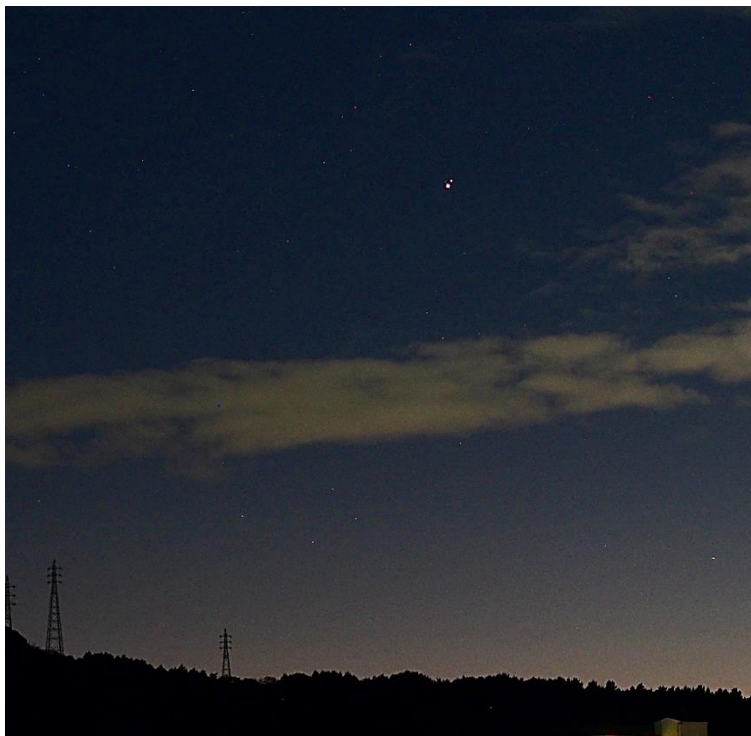


写真8 ほとんどくっつきそうになりました。前回は400年前、次に見られるのは2080年です。



写真9 望遠鏡で見るとこんな感じ。



写真10 2012年に金星が太陽の前を横切るという珍しい現象があり、各国で観望会が行われました。国によっては天候に恵まれず、こんな掲示が。

宇宙のスケールで見るとパンデミックも瞬間的なものでしょう。今年も気長に星とジョークを楽しみたいと思っています。